

もろこし

No.43



赤かぶの収穫

初雪の翌日、鶴岡市
関根の眞田昭良さんの
作業場では、赤かぶの
葉切り作業が行われて
いました。今期は天候
のせいもあり、田川地
域では約半分ほどの収
量とのことでした。

近年は猿被害に遭う
こともあるということ
ですが、数百年も続く
焼畑農法の田川かぶは、
温海かぶや藤沢かぶと
並んで、貴重な鶴岡の
在来作物として、地域
の方々により大切に守
り育てられています。

田川地域の赤かぶは、
その色合いと歯切れの
良さで大変好評を博し
ています。

(石塚治己委員)





年頭の「ごあいさつ」

鶴岡市農業委員会

会長 渡部長和

新年あけましておめでと
うございます。皆様にはご
健勝で新年を迎えられたこ
とと心よりお慶び申し上げ
ます。

近年、農業従事者の高齢
化や人口減少、食生活の変
化などにより米の消費量が
年々減少していく中、稲作
を主体とする本市の農業経
営は依然として厳しいもの
があります。特に平成30年
産米からの米政策の大改革
により、これまでの「生産
目標」は「生産の目安」に
転換され、米の直接支払交
付金は廃止となり、水田農
業に取り組む農業経営者は
大きな変革期を迎えること
になりました。

そうした中、昨年は7月
の高温少雨に始まり、8月
の大雨・洪水、9月の台風
による暴風被害など異常気
象に見舞われ、作況指数95
となり農家にとっては大打
撃となりました。

農業を取り巻く情勢が大
きく変化する中、農業委員
会では農地利用の最適化を

推進するため、農地の集約
事業に取り組んでおり、一
昨年モデル事業を実施した
藤島の八栄島地区では、約
6分の分散ほ場の集約を実
現しました。今後こうした
取り組みを全市に広げてい
くことで、コストの軽減や
作業効率の向上に繋がるも
のと期待しているところで
す。一方、中山間地では高
齢化による農地の移動など
が多くありますが、コミユ
ニティや農地を維持するた
めにも、小規模農家も含め
た多様な経営体意欲を持
つて農業に取り組める環境
が必要であると考えます。

他地域から庄内に来て美
田を見ると「感動する」と
良く言われます。この景観
を損なわないよう、農業委
員・農地利用最適化推進委
員が力を合わせて本市農業
振興に取り組んでいきます。
本年も皆様にとってより
良き年になるよう祈念し、
あいさつとさせていただきます。

皆川市長へ 建議・要望書を提出

農業委員会では、農業に
関する課題を行政に反映し
てもらうため、現場の声を
市及び国・県等の関係機関
へ伝える活動を行っていま
す。

10月24日に開催された第
3回定例総会では、以下の
4件の建議・要望が提案さ
れ、全て原案のとおり可決
されました。

- 平成31年度鶴岡市農業振
興施策予算に関する建議書
- 農地中間管理事業の改善
に関する要望書
- 河川の整備に関する要望
書



■ 学校給食の鶴岡産食材使
用推進に関する要望書
総会で決議された市長あ
への建議・要望書について
は、11月27日、農業委員四
役が皆川治市長を訪問し、
要望の趣旨等を説明した上
で提出しました。



皆川市長からは、各要望
に対する市の取り組みの現
状と今後の展望等について
話があり、その後、活発な
情報交換が行われました。
農業委員会では、今後も
地域農業を守るため、農業
者の皆さんが意欲と希望を
持つて農業に取り組めるよ
う活動していきます。

前会長 三浦伸一氏 平成30年秋の叙勲「旭日単光章」受章

平成30年秋の叙勲が発表され、本市農業委員会前会長の三浦伸一氏が旭日単光章を受章されました。三浦氏は平成5年に農業委員に就任され、平成20年からは会長を務めて、市の農地行政、農業振興に尽力されました。また、山形県農業会議副会長や農業委員会庄内地方協議会会長を務めるなど、本市のみならず県内外の農政、農業振興にも幅広く活躍されました。
受章おめでとうございます。



前 鶴岡市農業委員会 会長
三浦 伸一 氏

宮農・担い手

10月18日、宮農・担い手専門委員会と青年農業者・山形大学農学部学生との交流事業が行われました。

当日は天候にも恵まれ、青年農業者3人、大学生16人、委員等20人が参加し、青年農業者が関わる施設の見学と現地視察を行いました。

最初に見学した加賀山雄氏(播磨)が受託する実証圃場では、鶴岡バイオガスパワー(再生可能エネルギー発電所)から出る発電余剰熱による農業用ハウス加温実験が行われていました。温水ヒーターによる加温栽培でミニトマトが栽培されコストも低く抑えられ、甘くおいしいトマトが収穫されていました。今後の利用方法では、大きな期待が持てそうです。冬は青こごみを栽培しているとのことでした。次に、鈴木俊将氏(中京田)のきくらげのハウス栽培を見学しました。経営規模を拡大し、生食と加工用で販路を広げ、今は白いきくらげも生産しています。



加賀山雄氏が受託する実証ほ場



鈴木俊将氏のきくらげハウス

た。自ら商談に出向き、現在は輸出も行い、食品コンクールでは優秀賞を受賞して頑張っている青年農業者でした。

その後、第三学区コミセンに会場を移して意見交換会が行われ、視察先である青年農業者への質問や大学生の農業に対する思いや考え方を聞くことができ、貴重な時間となりました。引き続きの情報交換会も楽しく過ごすことができました。(専門委員会委員長 石川守)

専 門 委 員 会 活 動 報 告

食育・地産地消

10月23日、栄保育園で、食育・地産地消専門委員会の食育教室が行われました。

平成24年度から継続している食育教室も、幼少期から適切な食を学び、お米に慣れ親しんでもらいたいという思いのもと、7回目の実施となりました。今回は委員18人が参加し、栄保育園の年長・年中の18人の園児を対象ににぎり教室を行いました。

委員による自己紹介の後、初めにお米に関する話をする、園児たちは真剣なまなざしで聞き入っていました。また、お米をとぐ体験や、ガラス鍋でお米が炊ける様子の観察してもらい、炊きあがりの香りも体感してもらいました。その後はおにぎり作りに挑戦。最初は戸惑いながらも少しずつ慣れていき、「もっとやりたい!」と楽しんでいる様子が見られました。ごはんまつわる絵本と紙芝居の読み聞かせの後は、農業委

つやつやひめひめつやひめ~♪
さめてもおいしいつやひめ~♪



きもちいい~!

員会オリジナルの「つや姫体操」を園児たちと一緒に踊り、自分たちで作ったつや姫おにぎりの給食を皆でいただきました。つや姫体操のアンコールや歌のプレゼント、帰り際には一人ひとりと握手やハイタッチをするなど、楽しく交流を図りました。専門委員会で継続してきた活動の成果が見て取れるような有意義な食育教室となりました。(専門委員会委員長 萩原優太)

広報編集委員会 視察研修報告

優れた広報誌を発行する農業委員会の広報編集活動等を学ぶため、農業委員・農地利用最適化推進委員が先進地を訪問し、視察研修を行いました。

11月19日・20日、農業委員会広報編集委員9人、運営委員3人で宮城県を訪問し、登米市農業委員会と古川農業試験場で視察研修を行いました。広報編集委員会としては初となる視察研修で、様々な情報を得ることができ、とても有意義な研修でした。(広報編集委員長 太田裕徳)

11/19 宮城県登米市農業委員会

「農の広場 登米市農業委員会だより」を年3回発行。平成29年は、農業委員会の制度改正に関する周知のため特別号を2回発行したこと等が評価され、農業委員会だより全国コンクールで表彰を受けた。



はじめに登米市の農業、農業委員会の概要について説明がありました。登米市は県内有数の穀倉地帯であり、「ササニシキ」や「ひとめぼれ」の主産地として有名です。農業産出額では全国でも上位に位置し、鶴岡市と耕地面積は同じ位で、農業委員・農地利用最適化推進委員の人数も同じ位でしたが、鶴岡市で毎月開催している部会が登米市では“総会”と称し、農業委員は出席するが推進委員は意見を述べる時だけ出席するとの違いがありました。中山間地での、高齢化、後継者不足で遊休化している農地も多く、ほ場整備も進んでいない状況を、広報誌でも伝えながら様々な対策を講じているとのことでした。どの地域でも同じような問題を抱えていることを痛感しました。

広報誌については、A4サイズ、4ページで年3回発行し、状況次第では予算をやり繰りして特別号を発行しているそうです。全てのページがカラーで、活字も見やすいよう大きくし、読みやすい言葉を使って農家の皆さんにわかりやすく伝えることを心掛けているようでした。また、編集会議は1号発行ごとに3回の会議を行い、綿密な編集作業を行っていました。

その後の情報交換会では予定時間を大幅にオーバーするなど、活発な意見交換が行われました。

11/20 宮城県古川農業試験場

宮城県のブランド米、ササニシキ・ひとめぼれが開発・育成された施設。米の品種改良、水稻をはじめ麦・大豆の奨励品種選定や栽培技術の開発、病害虫の防除技術の研究、調査等を行っている。

「ササニシキ」や「ひとめぼれ」を開発した古川農業試験場。生産者と消費者のニーズに対応した安全でおいしい農産物を農業者が安定生産できるよう、作物の品種改良や新しい農業技術を開発する研究を行っています。

昭和2年に水稻育種を開始して以来、現在まで91年間に47品種を育成しており、最近では「だて正夢」を開発しました。



研修の最後には、同試験場で品種開発の年限短縮のために考察された、稲を年4回栽培することのできる“世代促進温室”を見学したり、直播栽培の方法別食味調査の現場を見て、炊きたてのおいしい香りを嗅いできました。



こんな農地を見かけたら 農業委員会までお知らせください

- ・草が生い茂り害虫の発生が心配
- ・歩行や通行の妨げになる
- ・動物が住み着いている
- ・ゴミの不法投棄 など

農業委員と農地利用最適化推進委員が
現地を確認し、解決策を考えます。

耕作地の交換 しませんか?



すすめよう

農地 集約

農業委員会では、分散されたほ場を集約し、農地の有効利用や農業経営の効率化を図るため、担い手間の話し合いを通じた耕作地の交換を積極的に進めています。

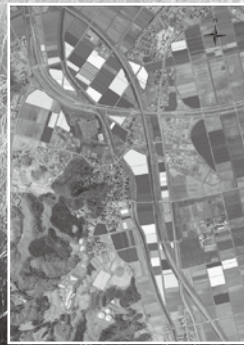
話し合いには地元の農業委員・農地利用最適化推進委員も同席し、参加者同士が図面を見ながら、ほ場条件や特徴などについて情報交換を行い、交換できるほ場がないか検討します。

これまで市内では、藤島の八栄島地区と鶴岡の高坂地区の2地区で情報交換会等の取り組みが行われ、互いの条件が合致した農地の交換が決まり、中間管理機構を通しての貸借が成立しています。

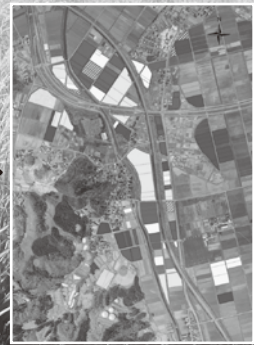
分散した農地の解消を図りたいと考えている担い手のみなさん、
まずは農業委員会へご相談ください。



情報交換会の様子



集約前



集約後

新規就農者の
みなさん!

アグリランドバンク 新規就農支援型が 農地の確保を支援します!

農地の貸付けに協力して下さる支援農業者・団体です。

(12月末現在、敬称略)

- (有)鶴岡協同ファーム (鶴岡・民田)
- (株)アシスト (鶴岡・本田)
- (有)田和楽 (藤島・小中島)
- 上新田農事組合法人 (藤島・長沼)
- 井上農場 代表・井上 馨 (藤島・渡前)
- (株)ハグロファーム (羽黒・川代)
- (農)あさひの輝き・まんてん (朝日・東岩本)
- (株)あつみ農地保全組合 (温海・湯温海)

支援内容、条件など、詳しくは農業委員会まで。

農業者年金で 豊かな老後生活を

しっかり積み立て、大きな安心

1. 農業者なら広く加入できる
2. 積立方式・確定拠出型
3. 保険料の国庫補助あり
4. 保険料は2万円～自由に選択
5. 税制面で大きな優遇
6. 80歳までの終身年金

全国農業



新聞

週刊・購読料700円/月(税込)

鶴岡市羽黒町押口の田んぼの真ん中にある「穂波街道 緑のイスキア」。お店の隣の畑で採れた新鮮な野菜を使ったピッツアやパスタなど、本格的なイタリアンがいただけるお店で、東北初の「真のナポリピッツア協会認定店」でもあります。

今回は、店主である庄司祐子さんにお話を伺いました。



〇〇に
いってきました

広報編集
委員が
おじゃまします!

鶴岡市内の話題のお店や法人などに広報編集委員が訪問し、その内容をレポートします。
今回は「穂波街道 緑のイスキア」にいってきました。

お店に入った瞬間、ピザ釜の前に立つ庄司建人さんと、お客様の接待をされている庄司祐子さんのお二人の笑顔と、お店に広がるピッツアの焼けたいい匂いで迎えてもらいました。

今回は、お店のマダム・祐子さんにお話を聞きました。

(株)ジェイファーム、

その名前には、「Japan Frontier Spirit Farm (挑戦者たれ・先駆者たれ)」という想いが込めてあります。

22年前、農家レストランを先駆けて「穂波街道」という名前でイタリアンレストランをオープンし、11年前、イタリアのイスキア島などでナポリピッツアの修業を重ねた息子の建人さんと共に、「緑のイスキア」としてリニューアルオープンし

ました。



庄司祐子さん

祐子さんにはたくさん顔があります。

「みやぎ・やまがた女性交流機構」、山形県グリーン・ツーリズム協議会」、そして、「(株)ジェイファーム専務」、お店のマダムでもあり、開店前には野菜の仕事に出ます。農業



と農作物がお店の土台をしつかり支えています。

「庄内が大好き」で、北海道でも九州でもない、ここ庄内で、その特徴を生かした農業をこだわってやっていきたいと祐子さんは言います。農業を始めて40年以上の祐子さんが、今もなお、新しい発見と新しい出会いに心をはずませていることがとても新鮮でした。



新規就農者や若い農業者などにアドバイスを求めると、「『一緒にやろう』と伝えたい。農業は、一人でやみくもにやっとうまくいく

ほど簡単ではない。学ぶことをおろそかにしては、絶対にうまくいかない。師匠を持つことも大切。教えてもらうことは、決して恥ずかしいことではない。ぜひ、農業士会も頼ってほしい」と答えてくれました。そして、「せっかく夢をもって取り組み始めた就農者に、想い半ばで消えて欲しくない」とも加えました。

彼女の言葉は、たくさんさんの経験を積んできたからこそ、とても厳しく、そして温かいエールでした。



ピッツアを焼くのは息子の建人さん

農地に関する Q&A

Q. 親が亡くなり農地を相続することになりました。農業委員会への手続きは必要ですか？

A. 遺産相続により農地を取得する場合は、農地の売買等とは異なり農地法の許可は必要ありませんが、農業委員会への届出が必要です。その権利取得を知った日からおおむね10か月以内に農業委員会へ届け出てください。

Q. 家庭菜園のために100㎡ほどの畑を購入したいのですが、可能ですか？

A. 農地を購入するには、農地法の許可が必要となります。許可を得るためには要件があり、農地取得後の経営面積が一定の面積に達しなければ許可されません。この下限面積は市町村ごとに異なりますが、100㎡以下に設定している市町村は少ないと考えられます。さらに農地法では、農地の効率的な利用の促進や、農業上の利用の確保のための措置を講ずることを目的としており、そこに家庭菜園はあてはまらなると解釈されるため、家庭菜園を目的とした農地の購入は難しいと考えられます。

祐子さんは、人と人、想いと想いの小さなつながりをつくり、それをつなげていくことが得意であると感じています。祐子さんに会おうと、何か動き出すかもしれません。

 (株)ジェイファームのフロンティア精神で、また新たな試みも計画しているとのことですので、近々発表もあるかもしれません。

次回は… **祐子さんのご紹介**
「知憩軒」さんに行ってきます！
 「独特のセンスがその名のとおりきらっと光る。食事も空間も落ち着き和食のお店です」(祐子さん)

れませんで、そちらもぜひお楽しみに！
 (重松美鈴委員)



全国農業担い手サミット inやまがた

11月8日・9日、「第21回全国農業担い手サミットinやまがた」が皇太子殿下をお迎えして盛大に開催され、全国からおよそ2千人が山形県を訪れました。本サミットの記念すべき第1回目は酒田市内で開催され、今回が山形県で2回目の開催となります。本県の農業が全国において重要な役割を担っているように感じることができ、1日目は、山形ビックウイングで全体会が行われ、皇太子殿下よりお言葉をいただきました。全国優良経営体表彰等の表彰式の後、県内8会場へ移動し地域交流会が行われました。グラントエル・サで開催された鶴岡・田川地域交流会には280人ほどが参加し、来県された方との交流を図りました。

2日目は県内8地域、計32コースに分かれ現地研修会が行われました。鶴岡・田川地域では4コース設定され、県外参加者が農業法人や産直施設を視察し食文化などを学びました。平成最後の年に山形県で開催され、新しい年号の次回は静岡県での開催となります。全国の農業担い手が一堂に会する良い機会です。静岡県でお会いしましょう。

(小林真推進委員)

大産業まつり

農業委員会では、毎年恒例の手作り寄せ豆腐のふるまいや、農産物の販売を行いました。たくさんのご来場ありがとうございました。



農家の皆様には、日頃より農業委員会広報「もっしえのー」をご愛読いただきありがとうございます。また、取材の際には快くご協力いただき心より感謝申し上げます。

一昨年、農業委員会法改正により農業委員、農地利用最適化推進委員が選任され、新制度の下で一年間活

あしがき

動して参りました。私自身、新米推進委員として勉強させていただきました。近年は各地で異常気象による自然災害に見舞われ、甚大な被害が発生しております。新しい年は新年号のもと、災害のない穏やかな豊作の年であることを願いたいものです。

(佐藤宣夫推進委員)



鶴岡の棚田 -温海・越沢-

山あいの傾斜地に階段状に作られた棚田。いつまでも守っていきたい農村の原風景です。

市内には、「やまがたの棚田20選」に認定されている美しい棚田が4か所あります。四季折々の表情を見せる棚田を、ぜひ訪れてみてはいかがでしょうか。

TSURUOKA TANADA PHOTO

- 鶴岡分室 25-2111 (代表)
- 櫛引分室 57-2114
- 羽黒分室 62-2111 (代表)
- 朝日分室 53-2111 (代表)
- 温海分室 43-4616

鶴岡市農業委員会事務局

〒999-7696 山形県鶴岡市藤島字笹花25(鶴岡市藤島庁舎内) ☎64-5868(直) FAX.64-5846
<http://www.city.tsuruoka.lg.jp/sangyo/nougyouuinaki/index.html>